

なごやぬいぐるみ病院 幼稚園春実施報告書

文責：野田茉友子

連絡先：purokionmn@gmail.com

●実施概要

- ・実施日：2013年2月28日
- ・活動場所：正木幼稚園
- ・当日参加した学生の人数：20人
- ・子どもの人数：30人(年中)
- ・活動時間：10:00～11:30
- ・活動内容：お医者さんごっこ&待合、保健教育
- ・保健教育テーマ：小児科について（主に予防接種について）
- ・当日の流れ（園児の動き、学生の動きが分かるように）

時間	行ったこと
9:00	集合@金山駅、移動開始
9:10	事前リハーサル、打ち合わせ@正木公園
9:45	幼稚園に入場、会場設営開始
10:00	アイスブレーキング
10:20	移動
10:25	前半開始（問診&待合、保健教育）
10:55	移動
11:00	後半開始（問診&待合、保健教育）
11:30	片付け
11:35	学生撤収
11:40	忘れ物確認、写真撮影@正木幼稚園
13:00	反省会@名古屋大学鶴舞キャンパス
15:00	解散

※子どもたちは半分に分かれてもらい、前半で問診&待合だった子が後半では保健教育に行ってもらった

●準備について

- ・今回の準備に向けて初めて MTG を行った日：2月1日
- ・準備に来た学生の人数：1日平均 6.5人

準備合計？人

（ほとんどすべての人が一回は準備に参加してくださいました）

・当日までの準備の日程・内容

日程	話し合ったこと、準備したもの
11月中旬	初実施の幼稚園に電話。実施可能とのお返事をいただく。
11月下旬	幼稚園に電話。12月上旬に幼稚園の方に伺い、打ち合わせをしようと試みるも断られる。
12月上旬	実施リーダー、サブリーダーの決定。
12月下旬	当日までの動きをリーダーたちに説明、一任する。 保健教育のテーマをメーリスでアンケートをとり、「体の仕組み」or「小児科について」のどちらかにすることに決定する。 準備参加予定をメーリスで聞き、みんながあまり参加できないことが判明。 問診形態は「お医者さんごっこ」に決定。
1月上旬	幼稚園に電話。 「お医者さんごっこ」の説明と保健教育のテーマについて相談する。 保健教育のテーマは「小児科について」に決定。 また2/18に幼稚園へ打ち合わせに行くことになった。
2月始め	実施準備のコアメンバーで話し合いがスタート。
2月7日	本格的に準備開始。 タイムライン決定、保健教育などの案出し。
2月12日	アイブレ、保健教育などの案出し。
2月14日	保健教育で「予防注射について」を主に行うことが決定。
2月18日	幼稚園の方に出向き、打ち合わせを行った。 部屋の数、机の数、様々なお願いを伝えた。
2月21日	保健教育の方法を劇にすることが決定。 アイブレが決定。 待合で何を行うかが決定。
2月22日	保健教育の台本叩く、問診について叩く。
2月24日	保健教育の台本叩く、保健教育の道具作り、問診について叩く。
2月25日	保健教育の台本完成！、保健教育の道具作り。
2月26日	保健教育について少々叩く、アイブレが完成。
2月27日	全体の流れ確認、問診練習、保健教育練習。 交流会用の保健教育ビデオを撮った。

●診察（おいしやさんごっこ not むいぐるみ病院）について

前回からの改善点・工夫した点

- ・「カルテ」「フローチャート」などは2012年夏実施のものを改善して使用した。何回も練習で使ってみることで使いにくい点を減らしていった。
- ・インフルエンザと風邪の違いがわかりにくいという話になったので「インフルエンザ検

査キット」というものを使用することにした。熱があるということになったら、患者さんに検査シート（画用紙に文字を書いた）を渡し、患者さんにはレントゲン係の所に行ってもらおう。患者さんはレントゲンさんから検査シート（結果、記入済みの画用紙）をもらう。結果が「赤い丸」となって表示されたらインフルエンザ陽性、「白い丸」となって表示されたらインフルエンザ陰性と判断するようにした。

- ・お医者さんごっこで子どもたちが患者さんに何を聞けばいいかすぐにわかるように流れ確認用フローチャートも作成した。そこには具体的に何を聞けばいいか（「いつからですか?」「どうしてですか?」「今日はどうしましたか?」など）を書いた。

- ・今回は時間の割に相手をするべき子どもの数が多く、また学生の数もとても少なかったため、学生：子ども=2：2で行った。学生は「お助けマン」と「患者役」、子どもたちは二人とも「お医者さん役」となった。子どもが文字を書けるか不明だった、子どもに書いてもらう時間を取るのが難しかったなどの理由から看護師役は作らず、学生のお助けマンがカルテに記入した。

- ・お助けマンと患者も椅子に座る予定だったが、当日見た机がかなり低かったため、急きょ学生は床に直に座ることになった。また子どもが2人いたため、お助けマンの学生は場合に応じて立ち位置を色々変えるように指示し、実際学生は臨機応変に場所を移動し、二人の子どもに平等に機会を与えるように努力していた。

●保健教育について

- ・テーマ：小児科について
- ・テーマを選んだ理由：

今回は初実施となる幼稚園なので、お医者さんごっこというものを行う前に、まずは病院について小児科について知ってもらいたいと思い、このテーマを選んだ。結果、健康な子どもが病院に行く理由で多いのは「予防注射」という話になり、注射は子どもにとって痛くて嫌なものだと思ったので、「予防注射の仕組み」をメインで話した。

実施の準備のコアメンバーでテーマの案を出し、それをメーリスで多数決を取ったところ「小児科について」と「体の仕組み」が残った。その後、幼稚園の先生と話し合ったところ「体の仕組み」というテーマは子どもたちにとって難しすぎるということになり、「小児科について」というテーマになった。

- ・形式：劇&注射体験
- ・内容：

子どもが母親に連れられて病院へ行き、そこで予防注射の説明をお医者さんから受けるという流れの劇を行った。劇が終了した後は注射体験を行った。

予防注射の説明ではその子どもの体の中で起こっていることを劇で表した。

まず、強い普通のばいきんが体の中に入ってくる。そこで「マクロファージ」と「リンパ球」という体の中を守ってもらう二人の兵隊さんが登場する。しかし、結局、ばいきんが勝ってしまい、病気になってしまう。

その後、予防接種を打った時のことを行った。まず、弱いばいきんが体の中に入ってくる。その時は「マクロファージ」と「リンパ球」はばいきんに勝つことができる。その勝った時にばいきんの写真やばいきんを倒すための武器を作っておく。

最後に予防注射を打った後、強いばいきんが体の中に入ってきた時のことについて行った。その時は「マクロファージ」と「リンパ球」は前に作っておいた武器でばいきんを倒すことができる。なので予防接種を打つと、病気にかかりにくくなるという説明をした。その後、予防注射を打っても病気にかかることはあること、だが軽くすむことが多いことなどを述べた。

次に注射体験を行った。注射体験では針のついていない注射器を使い、紙とストローで作った疑似血管に注射をしてもらうという方法で行った。

使ったもの（作成したものも含む）

当日使用：背景（診察室の中）、ばいきんの衣装（かぶりもの、黒いパーカー、武器）リンパ球、マクロファージの衣装（かぶりもの、白いケーシー）ばいきんを倒すための武器、ばいきんの写真、注射キット（注射器のシリンジ、紙コップ、紙でできた血管）医師の衣装（白衣）母親の衣装（エプロン）

準備段階：台本

・説明の際、注意した言葉や表現

強いばいきんと弱いばいきんが分かりにくかったので、「声を高くする」「しゃがんで登場する」「武器をもたない」などの工夫をして、わかりやすくした。

卵アレルギーだと予防注射が打てない、予防注射を打っても病気にかかることがある、予防注射には副作用があるなどの理由から、予防注射を打たないという選択をする家庭もあるので、予防注射を推奨するのではなく、予防注射を打つとこんなことが起こるんだよと

いう説明のみにとどめた。

また予防注射を打っても病気にかかってしまうことはあるということも伝えた。

・園児の反応：

理解：理解してくれた 理解できないようだった わからない

楽しさ：楽しんでいた つまらなそうだった わからない

行動変容：保健教育を受けて、行動が変わった 変わらなかった わからない

その他

<劇について>

子どもと学生との距離が大きすぎたり、子どもたちの緊張がほぐれていないこともあり、聞いてくれはしたが、楽しんでいたのかは不明だった。また劇に関しては行った内容が難しすぎたのか、間違った知識を得た子どもも少しいたようである。家族に内容を話したり、注射を怖がらなくなったりする行動変容はあったようだ。

<注射体験について>

注射ごっこの時は何回も注射を行おうとしたり、楽しそうにしていた。確実に注射に対する恐怖が減ったと思われる。

良かった点

- ・最後の注射体験が楽しかったようであった。注射に対する恐怖心をなくすという目標は一部の子では確実に達成できたのではないと思われる。
- ・ばいきん役を作ったことでばいきん役の学生と子どもが仲良くなっていた。
- ・免疫の本を読みあさり、公式などところから出ている動画なども見て、みんなで勉強した後で作ったので、正しい内容を伝えることが出来たのではないと思われる。

反省点

- ・内容が難しすぎた。間違った解釈（インフルエンザにかかるとなきゃ、今回の注射が痛くないのは中が空気だからだよ、などを家で話して、慌てて訂正したという意見あり）
→もう少し噛み砕いて説明すると良かった。
- ・劇の最中、子どもと学生の距離が遠すぎた。
→事前にもっと部屋の見取り図などを用意しておき、子どもと学生の適切な配置を考えられたら良かった
- ・時間が余ってしまった。保健教育の時間は30分もあるにも関わらず、劇の時間がもって10分だった。一応当日時間が余ったら「じゃんけん列車」「追いかけてっこ」を考えていたのだが、あくまで緊急対策として考えたものなので、幼稚園に相談したりするなどの措置は

取っていなかった。しかも、当日学生が緊張のためかいつもより早口で進んでしまったので当日は5分で劇が終わり、かなりの時間があまってしまった。

結局その後は前半はじゃんけん列車をやりうまくいった。(学生が腰を痛めかけたという意見もある(笑))しかし後半はじゃんけん列車があつと言う間に終わってしまい、ばいきんを追いかけまわすという転ぶ危険性がある状態になってしまった。その後はなんとか絵本の読み聞かせを急ぎょ行うことで対処した。

→最初から幼稚園の方と余った時間をどうするかの方法を考えておくべき。また保健教育の時間が余ることはあらかじめ十分に予想できたことなので、もっとやることを増やしてもよかった。

・同じテーマの保健教育をやる大学へのアドバイス

形式について

劇は方法によってはとても食いついてくれるし、とてもいいツールだと思います。しかし、入念な練習を重ね、動作の付け方、セリフの言い方など多くを覚えねばいけません。また子どもをいかにして引き付けるかは経験も必要だなと、子どもたちに近づきしゃがんで劇を行い始めた先輩の動きを見て思いました。

テーマについて

今回、私たちは予防接種をどうして打たなければならないのかを伝えようとした。そして免疫の話を読み、リンパ球がウイルスの情報を記憶することやマクロファージが最初にウイルスを見つけることなどを学んだ。

それをどこまで削り、どこまで子どもたちに伝えるべきか悩んだ結果、上のような結果になった。しかし子どもたちにとってはまだ難しすぎたようで「病気にかかったら二度と同じ病気にはかからない」→「インフルエンザにかからなきゃ」と勘違いする子がいた。

●ぬいぐるみ病院では無い活動（小児科活動、町のお医者さんなどはこちら）

・活動の名称：待合

・内容

問診を行っていない子どもたちに対して絵本の読み聞かせを行った。

5冊の本を持参した。「歯が抜けた話」「私たち、うんち友達?」「にんじん」「もりのびょういん」「ぴよこぴよこ」(題名があやふやです。申し訳ない)最後の以外は保健教育的な内容、病院の内容の本ばかりを集めた。

・前回からの改善点・工夫した点・良かった点

・既製品の本を使うことで子どもたちにとって知っている本があるかもしれないと思
い、たくさん借りてきた。そのため、保健教育で時間が余るという事態にも絵本を使

って対処することができた。

・紙芝居はたくさん練習が必要ということで紙芝居の読み聞かせではなく、絵本の読み聞かせを行った。

・子どもと接するのがうまい上級生に読み聞かせ担当になってもらうことで、子どもたちの心をつかむ読み聞かせを行うことができた

・今回の実施を受けての反省点と、それに対する改善策

・待合に関しては特に問題はなかったと思われる。あえて言うなら待合と問診の間にしきりがあつたらよかつたかもしれない。しかし、読み聞かせを行う先輩たちが上手だったのと、問診の子が待合の子たちに背を向けた配置だったので、特に問題は起こることはなかった。

●その他（任意）

・企画まで進まなかったが、話し合いで出た保健教育テーマ

小児科について(ぬいぐるみの活動を同時に知ってもらおう！)※今回はコレ

大きくなるためには（良く寝て食べてね！）

花粉症（こどもはなるのか分らんけど…）

風邪に気を付けよう（季節の変わり目）

寒い日と暖かい日があつて、体調を崩しやすいので、その辺りで気を付けてほしいこと

ともだちと仲良く遊ぼう☆（初実施に向いてないけど新学期近いので…）

いのちの大切さ（つくばやってた??）

なんで春に検診をするの？(歌菜ちゃん案 「身体重」「聴診器」「歯」「視力」「のど」「聴力」なんで調べるの??理由がわかれば検診に対する気持ち変わる！)

体のしくみ（ぬい総でやってたかも）

☆保護者アンケート結果

回答数：19名

実施後の子供の変化

変化があった	変化がなかった
7	12

【実施後の具体的な変化】

- ・嬉しそうに話してくれました。
- ・予防接種の真似をとても詳しくやっていた。
- ・家でお医者さんごっこが始まった。

- ・帰ったその日にレントゲン箱を作り、道具一式紙でお医者さんごっこが始まった。
- ・注射も病院も行くのが嫌いだったが、予防注射は大事なんだと分かってくれた。

【お子さんを参加させてよかったと思うこと、よくなかったと思うこと】

◎よかった点

- ・楽しそうだった。
- ・敬遠されがちな病院を身近に感じる事ができた。興味を持つ事ができた。
- ・普段はできないことを体験できてよかった。
- ・お姉さん、お兄さんとの交流も楽しかったようなのでよかった。
- ・注射も病院も嫌いだったが予防接種は大事なんだと分かってくれたようでよかった。

×悪かった点

- ・間違っ覚えてきていることも多かった。

(インフルエンザにはかからなければいけない、注射には空気が入っているから痛くないって言ってたけどいつもは痛いのはなぜ?)

【今後行ってほしいテーマ】

- ・老人ホームの方に会わせてみる。
- ・交通ルールやマナー
- ・病気の予防や、病気になるとどうなるかななどの具体的な勉強

【改善点、意見など】

- ・まだうまく言葉で表せないことも多いので、どのようなことをしたのかよく分からなかった。
- ・時々このような機会があるといい。
- ・事前に内容を詳しく分かっていると子どもともっと具体的に話せた。
- ・大きいお兄さん、お姉さんがたくさんいて緊張した！とさかんに言っていた。

☆保育園の先生からのアドバイス

【職員の皆様に対するアンケート結果】

回答人数：2人

①子どもたち年齢に合ったテーマだと思いますか。

少し難しい…2名

・注射のテーマが少し難しかったようで、違った解釈をしてしまっている子もいた。お医者さんごっこの方はみんな理解して楽しめたようです。

②テーマの伝え方は適切でしたか。

そう思う…1名

どちらでもない…1名

③学生の人数は適切でしたか。

少し多い…2名

④学生の態度に満足していますか。

満足…1名

やや満足…1名

⑤学生の態度に対し、気になる点があればお教えてください。

・子どもたちに終始笑顔で接していたので初めは緊張していた子どもも安心して取り組むことができました。

・子どもたちに積極的に接している姿が良かったと思いました。

⑥子どもたちが参加してよかった点、あるいは悪かった点を教えてください。

・医者という職業や病気について関心が高まりました。子どもたちにとって新鮮なことばかりだったのでとても楽しめたようです。

☆子どもたちからのアンケート結果

回答数：19名

①今日やったことはどうでしたか。

【予防接種について】

簡単…14名

普通…2名

難しい…3名

【お医者さんごっこについて】

簡単…14名

普通…3名

難しい…2名

②どれが一番面白かったですか。

予防接種について…3名

お医者さんごっこ…16名

③初めて知ったことはありますか。

・聴診器の使い方 …4名

(それに加え、心臓がドキドキしていること …2名)

・包帯の使い方

・注射の仕方 …2名

- ・骨折という怪我の名前
- ・骨折した時の処置(包帯を巻くこと) …2名
- ・予防接種のこと …4名

(それに加え、予防接種が大切だということ、ばい菌が来なくなること)

- ・ばい菌がなぜ体内に入るのか

④次にやってみたいことはありますか。

- ・お医者さんごっこ
- ・レントゲン
- ・のどの検査
- ・包帯
- ・体触りゲームをもっといろんな体の名前を交えて楽しく遊びたい。
- ・本物の注射を打ってみたい。
- ・動物のお医者さんをやってみたい。
- ・病院を作りたい。